

酒々井町郷土研究会々報

第81号

平成8年7月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

佛像考 (その五)

羅漢部 其の他

〈阿羅漢〉

青木朝次

羅漢とは、阿羅漢の略、はじめは佛弟子に對する尊稱であつたが、日本では十六羅漢や五百羅漢といわれるように、佛道修行者全般を指すことが多く、これには、釈尊の十大弟子をはじめ、維摩居士や各宗派の祖師、高僧なども含まれている。

十六羅漢

十六羅漢は永久に生存して、末世(如来、菩薩等が減じる時)に佛法を守るようにといわれた佛の予備である。

五百羅漢 (図1)

五百という数は多数という意味で必ずしも五百体の像を指すものではなく、五百人の羅漢の名がまぎまぎしているわけではない。

禿頭盧尊 (図2)

十六羅漢の中の第一尊者で神通力に勝ぐれ過ぎ、佛陀にしかられ、本堂の外陣の前縁におかれ、病人が患部と同一個所をなでて病氣の回復を祈願する。「なまほとけ」「おびんするさま」とよばれ信仰の対象になっている。

〈十王〉 (図3)

十王經に説く、冥界で死者の罪業を

裁判する十人の王であり、人間は三界(欲界、色界、無色界)と六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、天上)に生死をくりかえす(輪廻転生)と考えられ、この六道に導くのが六地藏である。

のちに十王には本地佛が決まり、十三佛が成立して人々の救済に当たるといふことになる。その関係は

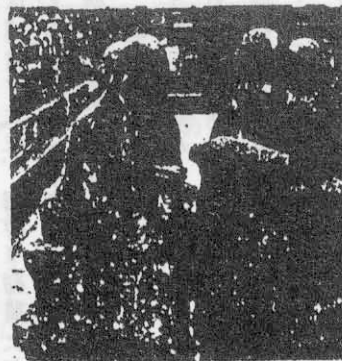
- 不動明王 (初七日) 秦(王)
- 釈迦如来 (二七日) 初(江)王
- 文殊菩薩 (三七日) 宋(帝)王
- 普賢菩薩 (四七日) 五(官)王
- 地藏菩薩 (五七日) 閻(魔)王
- 弥勒菩薩 (六七日) 変(成)王
- 薬師如来 (七七日) 太(山)王
- 觀世音菩薩 (百ヶ日) 平(等)王
- 勢至菩薩 (一周忌) 都(市)王
- 阿弥陀如来 (三回忌) 五(道)王
- 阿閼如来 (七回忌) 蓮(上)王
- 大日如来 (十三年) 披(苦)王
- 虚空蔵菩薩 (三十三年) 慈(恩)王

〈奪衣婆〉 (図4)

閻魔大王の妹で、三途の川の前において、死者の衣服をはぎとり、衣領樹の上にいる懸衣鉤に渡すと伝えられる鬼婆。

〈青面金剛〉 (図5)

身体の色が青い金剛像で、大威力があつて病魔・悪鬼を払い除く。六臂三眼の忿怒相をしている。庚申信仰の本尊で青面金剛の種類は多種多様で、路傍の庚申塔は上部に日月、青面金剛が邪鬼の上に立ち、その下に三猿が並ぶ造りが多いが、細部を略したものもあり近世の作は文字路が多い。



五羅漢 (図1)



禿頭盧尊 (図2)



十王のうち閻魔王 (図3)

〈二王 (金剛力士)〉 (図6)

佛(如来、菩薩)を守るために諸天や鬼神を付ける風習は古くからあるが、二王は寺の入口の門の両側に位置し、寺全体を守護する。

昔一〇〇二人の王子があり、一〇〇〇人は佛と成つたが、末の二人は王子達を守る二王となつた。左の口を開いているのを(呵形)那羅延金剛、右の口を閉じているのを(呬形)密迹金剛という。どちらも裸体で岩座の上に立ち、金剛杵という棒状の武器を持つ。

〈道祖神〉 (図7、8)

道路、旅の神。村を外災から守る墓の神として村の入口に祀られる。江戸中期以降のものとほとんどが、宮形文字塔である。子授け、安産、良縁、夫婦和合等に變化、何故か酒々井には八体の双体道祖神像がある。男根を意味する三又大根を供える風習がある。



奪衣婆 (図4)



青面金剛(庚申塔) (図5)

〔石塔〕

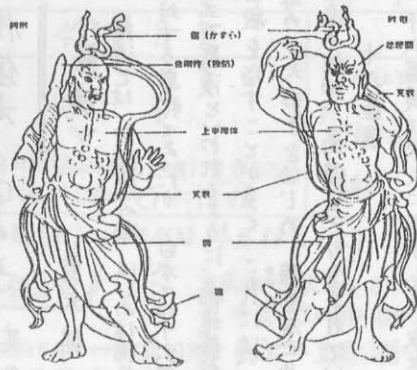
石塔とは層塔、多宝塔、宝塔、宝篋印塔、五輪塔、板碑、石幢、無縫塔等を指す。

各種の佛像、月待塔、念佛供養塔、庚申塔、道祖神、屋敷神、水神、佛足石等は石佛の部類に入る。

五輪塔(図9) 鎌倉期以後、先亡者の供養塔や墓石として使用されるようになった。もともと一般的に知られていた。

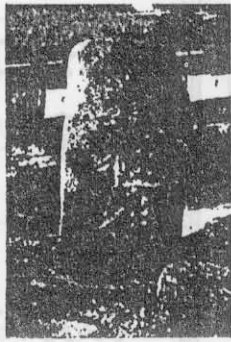
多宝塔(図10) 宝塔は本来多宝如来と釈迦如来を本尊とするものだが、密教では大日如来を本尊としている。

宝篋印塔(図11) 諸佛の舍利、陀羅尼教を納めた供養塔

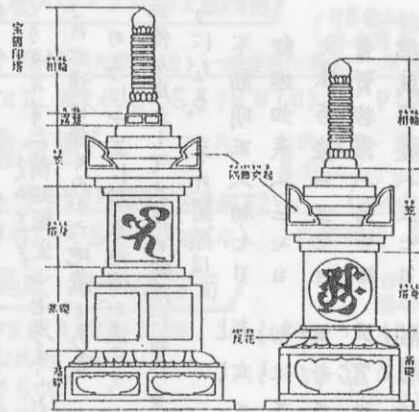


道祖神 (図7)

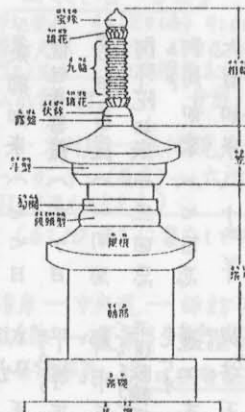
二王(金剛力士) (図6)



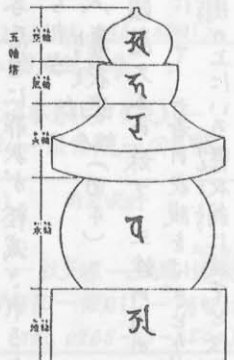
下岩橋菟賀神社の双体道祖神 (図8)



関東式 宝篋印塔 (図11) 関西式 宝篋印塔 (図11)



多宝塔 (図10)



五輪塔 (図9)

町内史跡巡り

中山 雅夫

見上げると曇天、今にも降りそうな空模様。総勢四十数名が九時一分頃、副会長さんの行程説明後、公民館を後にする。

ポツリ、ポツリと降り出した雨も芝山道に出た頃には止み、眼前に田畑が拡がり鶯が美しい声で我々を迎えてくれた。大川戸石佛では延命地藏、庚申塔や如意輪観音について会長さんの蘊蓄のある説明が参加者を感じさせた。東伝院では明治、大正、昭和の初期にかけて言論界を風靡した徳富蘇峰翁の詩碑や下織式の部厚い板碑を見学。

次の飯沼本家では新潟から移築された「曲がり家」の二階には、わら工芸の生活用具などが展示され、時代の流れを感じた。一階の試飲コーナーでは充分なサービスで、ほろよい加減の顔が綻ぶ。コミュニティプラザの二階で各自昼食後、町が力を入れていく施設の一つであるハーブガーデンを見学。約五十種のハーブが試験栽培されていて、色々の美しい花々が目を楽しませてくれた。香り高いハーブティも配られた。次は県指定の文化財になっている獅子舞で知られる六所神社に参拝。この神社には鳥居がなかった。

何故だろう。何十年も前に何処かで見た勇壮な獅子舞が今更のように蘇る。最後に、江戸末期には境内が五六の坪もあったという泉光院を訪れる。真言宗文殊寺の末寺で、本尊は大日如来だが、廃寺になって久しいという。妙見菩薩、薬師如来及び十二神将のうちの五体がうらやましく並んでいた。見学の合間に野草に詳しい亀井さんの説明も嬉しかった。二時半頃、尾上のかソリンスタンドの手前で流れ解散。楽しい有意義な一日が終わった。

旅随想

杉坂 一

高遠、駒ヶ根見学の二日間は、雨の見舞も受けず幸いでした。寒かろうと棄じた信州も思いの外暖かく汗ばむ程でした。

絵島、生島の古事を再認識し、名刺を尋ね、靈犬早太郎伝説を聞き、岩見重太郎伝説と重ね合わせて、古人の信仰の高さを感じました。遠照寺のぼたん園は遠景の山を背景に、色とりどりに咲きほこる姿は美しく見事でした。

宿泊の温泉郷登神の桂月ホテルの夕食も、山海の珍味ならず山川の珍味で、山女と馬刺しに山草等。しかし、馬刺しはちよつと抵抗がありました。皆々、んに特技の芸能を披露していただいたり、最後に全員手をつないで「屋影のワルツ」を混声合唱で手締め、愉快な宴会でした。



山菜を食べる会に

参加して

松本洋子

今年も四月二十五日山菜を食べる会の催しがありました。酒々井にまいりまして参加するのは三回目です。私のふる里和歌山でもこの時季、芥やふき、わらび等食膳に並びます。

酒々井のこの催しで、たくさんの人と一緒に山野草のいろいろ工夫された料理を御馳走になり、又ホロ苦い野草の味をなつかしむことができたのしい行事です。

此の度ほんの少しお手伝いして、年々少なくなつてゆく山野草を調達したり、前日より準備し細やかに、たんねんに料理される役員さんやお手伝いの方々の様子は大変だと思いました。

席につき料理を頂きながら、山野草の持味を上手に生かされた一品／＼に感激しました。

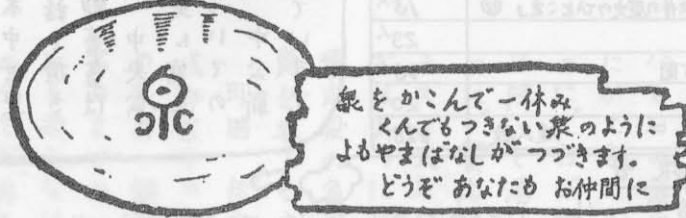
このような山菜を食べる会、七草粥など郷土研究会の伝統ある行事、いつまでも続けて頂きたいと思ひます。



楽しかった甲州の旅

高橋喜重

五月二十九日、予報で心配したお天気も旅日和となり、高遠登神温泉一泊旅行見学会に出かけました。総員四二名で定刻六時三〇分酒々井を出発。東関道首都高、中央自動車道と流れも順調で八王子石川エリヤで小休止。更に一路西進、左右に新緑の山々を見、笹子トンネルを出て視界の広い甲府盆地へ入りました。左に南アルプスの巨峰、右には八ヶ岳、前方には中央アルプスの山々を見、雄大な眺めに皆大よろこびでした。諏訪の「おぎのや」での昼食後、高遠への急な峠道「秋夜峠」を走る車中からの眺望も又格別でした。高遠町文化センターに駐車、蓮華寺の石段を登りお詣りの後、建福寺見学。又バスに乗り、高遠城址の下を通り絵島田み屋敷、更に道幅のせまい所を通過して牡丹で有名な遠照寺へと参りました。更にバスは伊那市へと進み、中央高速飯田ICで下りて阿智村の長岳寺へと参りました。武田信玄公供養塔灰塚が有り、若い住職のお話し上手に一同疲れを



忘れました。さて予定の時間通り宿泊地登神温泉桂月に到着致しました。一同たつぷりお湯にっかり、六時三〇分より宴会、多芸の皆さんの次々の御披露、宴会時間が超過する程楽しませて戴きました。「星影のワルツ」を腕を組んで合唱、手打ちをしておひらきになりまし

た。翌三十日は八時三〇分に旅館を出発。飯田市中村の関島水引工芸館では見事な工芸品の数々、ほんとうに驚きました。再びバスに乗り養命酒駒ヶ根工場を見学、ハイテク作業工程に感嘆、養命酒の創始者塩沢宗閣翁の銅像は立派でした。次に室積山光

前寺の名勝庭園では自生している「光りごけ」を見、南信州唯一と言われる三重の塔を見学しました。レストランハウスこまがねしでの昼食後、酒々井の清光寺と関係のあるという安楽寺にお詣りしました。開山の還夢上人は清光寺で剃髪されたそう

す。安楽寺をあとに中央高速で伊那谷と別れをつけ、一路帰路の途に着きました。予定通り六時三〇分頃到着。皆さんお疲れさまでした。八街観光のドライブバーさん、ガイドさん御苦勞さまでした。会員の皆様、またの機会をお楽しみに!! さようなら。



長岳寺 (阿智村 駒場)

ご連絡をお待ちしております。平成八年度も半年を経過して参りました。会員数確認のため会費納入につき整理をしております。未納の方は誠にお手数ですが、会長宅までご連絡下さいますようお願いいたします。

(連絡先電話)

郷土研行事業内


平成8年7月~9月

	7月	8月	9月
史談会	6日(土) 午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑬ 講師 高橋健一先生	休	7日(土) 午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑭ 講師 高橋健一先生
名勝探訪	9月10日(火) 雨天代替 9月13日(金) 集合場所 京成酒々井駅 集合時間 8:15 (自由参加、自由昼食)	板橋区赤塚方面 京成酒々井 → 京成日暮里 → JR日暮里 → 池袋 → 東上線下赤塚 → 篠崎稲荷神社 → 大堂 → 松月院 → 赤塚植物園 → 乗蓮寺(東京大仏) → 赤塚溜公園 → 三田線西高島平 → 築鴨 → 上野 → 酒々井	徒歩 3.5km の行程
郷土史講座	8月11日(日) 午後1時30分開演 演題 「中世の房総を考える」 講師 国立歴史民俗博物館長 石井 進 先生	中央公民館 講堂	多数の御来聴をお待ちしております。

月日	内容	参加者数
4月8日	名勝探訪 国府台方面	19人
19日	野草観察 上岩橋、上郷方面	19人
25日	山菜を食べる会	70人
5月11日	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑩	22人
12日	町内史跡めぐり 馬橋・墨方面	53人
29-30日	一泊見学会 高遠・駒ヶ根方面	42人
6月1日	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑫	15人
6日	運営委員会	23人
12日	名勝探訪 皇居方面	45人
28日	会報発送	20人
延人数		328人

郷土史講座
講師紹介

石井 進先生は、国立歴史民俗博物館の三代目館長で、日本の中世史がご専門です。今回は千葉氏の問題をはじめ、房総の中世史の特質について、日本中世史の広い視野からお話し頂きます。なお先生の御著書は数多くありますが、中央公論社の「日本の歴史」第七巻は鎌倉時代史についての名著として有名で、中公新書にもおさめられています。



項目	金額
長野、高遠、駒ヶ根方面1泊 (5/29~5/30)	
収入 会費 23,000 × 42	966,000円
支出 八街観光へ	937,514円
保険料	3,234円
ドライバークレジット	8,000円
お土産代	3,708円
コピー代	180円
宴会補足金他	26,690円
郷土研の補足	13,276円
合計	979,276円

名勝探訪 9月10日(火) 雨天代替 9月13日(金)

今回は名勝探訪としては珍しい東武東上線方面です。菅田赤塚駅で下車し、江戸近郊の農村として栄えた赤塚の由緒ある城跡や古道を訪ねます。道中には、下総千葉城から敗走し、一三〇余年に渡り居城した赤塚城主千葉自胤が寺領を寄進し、菩提寺として創建した松月院の境内には、高島秋帆記念碑、下村湖人の墓、また三遊亭円朝の怪談「乳房榎」はここにあった古榎にヒントを得たとい

空もようが気かかると毎日、郷土研究会の行事には幸いなことに降らず照らすで、降っても濡れるほどでなく、家に帰りつく頃からは、難なく予定、日程を消化。お心かげのよい方々ばかりいらつしやる様ですね。

開通したばかりの東葉高速線に乗って、アツと言う間に大手町駅、地下道を皇居まで出る間の方が時間がかかったみたい。ちやうどオフスマンの昼休み時間帯でジョギングで走る人の多い皇居周辺、北の丸公園内の池の湧き水のきれいだっただけで、健康に注意、元気で夏を過ぎましょう。

われています。香りの花だけを集めた香りの散歩道、野草を配した野草道のある広大な赤塚植物園。室町初期の創建といわれる乗蓮寺に坐す八ニメートルの青銅の大仏は奈良、鎌倉に次いで三番目の高さを誇る東京大仏。千葉氏の城跡に造られた溜池公園等立寄りです。東京区内屈指のマンモス田畑のある新高島平駅より帰ります。因みに高島平の地名は、高島秋帆にちなんで名付けられました。

